

横断型基幹科学技術研究団体連合

第 5 回理事会 議事録 (抄録)

日時：2004 年 1 月 26 日 (月) 17:30 ~ 19:30

場所：産業技術総合研究所 理事長室

出席者：(敬称略、各 50 音順)

会 長：吉川弘之

副会長：木村英紀

理 事：今野 浩、曾我直弘、館 暲、出口光一郎

監 事：岩橋良雄、河野宏和

事務局：井上雄一郎、清水祐美

欠席者：理事 木下源一郎、千原國宏、土井美和子、村上陽一郎

議事：

1. 新規加盟申込みについて

臨時総会(12月1日)以降、新規加盟申込みが、(1)品質工学会と(2)日本バイオフィードバック学会からあった。

これを受けて、規約第18条に基づき「文書による総会」を実施し2学会の加盟承認を諮ることが承認された。

2. 新規調査研究委員会設置申請について

新たに提出された調査研究委員会設置申請書1件「次世代システム工学の構築に関する調査研究委員会」について審議を行った。システム工学の構築は横幹的であるとの判断から、同調査研究委員会の設置が承認された。

3. 横幹連合パンフレットについて(事務局)

パンフレット案について検討した。表紙と図3点のデザインは原田 昭先生(日本デザイン学会会長)にデザインを依頼、2ページ目の説明文は企画委員会で分担執筆中。また表題の「モノづくり コトづくり」は承認された。

4. 各委員会等の活動報告(主要事項のみ)

(1) 知財問題委員会

- ・12月22日に、「知的財産戦略本部」メンバー約50名に対して、「知的財産高等裁判所」設立に関わる請願書を発送した。
- ・現状の流れは、見かけ上の形は新しくなるが実態は現状と何も変わらない可能性が大。
- ・専門委員の推薦要請が各学会に出始めているが、技術判事制度を潰すことにつながるので安易に受けるべきではない。
- ・現在は特許法69条によって研究目的での特許利用は許容されているが、米国では利用不可との判決が出た。日本にも影響がおよぶおそれも考えられる。大学にとっては致命的な問題。
- ・今後主要な問題点を簡潔にまとめて、理事会に諮ったうえで関係方面にアピールしていきたい。

(2) 国際委員会

次のシンポジウムについて、横幹連合にて後援することとした。

- ・2004年7月19~21日開催:2004 Japan-USA Symposium on Flexible Automation [2004JUSFA]
(2004日米フレキシブル・オートメーション・シンポジウム)

以上